

平成 26 年度みんなで支える森林づくり大北地域会議（第 2 回）議事録

1 開催日時 平成 27 年 3 月 5 日（木）13 時 30 分から 15 時

2 開催場所 大町合同庁舎 講堂

3 出席者

・委員：浅見昌敏（座長）、勝山隆之、香山由人、菅沢由美、丸山美栄子、
鷺沢恒夫（以上 6 名 五十音順で掲載）

・北安曇地方事務所：加藤林務課長、他林務課職員 5 名（以上 6 名）

4 会議事項

(1) 開会

(2) あいさつ（土屋地方事務所長）

本日は、今年度第 2 回目の「みんなで支える森林づくり大北地域会議」にお集まりいただき、ありがとうございます。

まず、この度の大北森林組合の不適正な補助金の受給及び県の不適切な事務処理について、心からお詫び申し上げます。

この会議は、県民の皆様から頂いた「森林づくり県民税」を大北地域の山づくりに活かすために、県民代表として委員各位からご意見を頂くことを目的にしております。

大北森林組合の不適正な補助金の受給については、「森林づくり県民税」を活用した事業も含まれていることが明らかになっております。

現在、県の調査班により全容解明に向けて徹底した調査が行われており、地方事務所といたしましても県と一緒に全容の解明、再発防止にしっかり取り組み、県民の皆様の信頼回復に全力で努めてまいります。

本日は、森林税活用事業の今年度の実績及び来年度の計画について御意見を頂くとともに、大北森林組合の問題についても説明させていただきますので、委員の皆様の忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしく願いいたします。

簡単ではございますが、当地域会議に先立ちましてのご挨拶とさせていただきます。

(3) 議事

○ 平成 26 年度森林税活用事業実績について(事務局説明)

【浅見座長】 説明がありました。皆さんからご意見ご質疑をいただきたいと思います。（特に意見が無く）先に進んでいいのでしょうか。

○ 平成 27 年度森林税活用事業計画について(事務局説明)

【浅見座長】 平成 27 年度事業計画について皆さんからご意見ご質疑をいただきたいと思います。

【香山委員】 以前からこの会議で述べてきたことだが、国、県事業の嵩上げは事業者にとってはありがたいが地域の独自色が薄いので、今回の要望は市町村独自事業を活かした査定となれば良いと思う。

【事務局】 各市町村が多様な事業に取り組んでいただくよう PR したい。大町市では松

くい虫対策のみであったが、木材利用やペレットストーブに取組んでいただきありがたい。

【丸山委員】 子供に木材製品をプレゼントしたらと、大町市の課長さん等と話をしてきたので、ファーストブロックプレゼント事業はとても良いと思う。子供が舐めることもあり、塗料等安全面に留意してほしい。

【事務局】 大町市と相談しながら実施していきたい。

【鷺澤委員】 ペレットストーブ導入補助 1 台 10 万円の補助金額は適正か。

【事務局】 (従来からある) 森のエネルギー推進事業と同様にしている。ストーブ及び設置費用で数十万円かかるが、それに対して 1 台 10 万円としている。

【鷺澤委員】 小谷村の緩衝帯整備が基本枠と重点配分枠があるのは別の場所を対象としているのか。

【事務局】 両方使って一緒に実施する。

【浅見座長】 事業計画について特にマイナスの意見はありませんでしたので、これでよいでしょうか。次の説明をお願いします。

○ その他

①平成 26 年度森林税広報事業について(事務局説明)

【浅見座長】 資料 3 (広報活動状況) について何かご意見ありますか。なければ次お願いします。

②大北森林組合問題について

【加藤林務課長】 この度の大北森林組合の補助金不正受給、県職員の不適切な事務処理により、県民及び関係者の皆様の森林整備に対する信頼を損ない残念であるとともに心からお詫びしたい。

間伐を中心に森林整備を推進させるために平成 20 年から森林税導入されたが、大切な税金を使った事業の中で不適正な事案が発生してしまい申し訳ない。(1月 29 日記者発表資料をもとに説明)

【丸山委員】 ニュースを聞いてショックを受けた。補助金はそんなに簡単に使えるものなのかという、市民の声を聴いた。お金を受け取るのであればきちんとした仕事をするのは原点である。公金を使うという立場では県民を裏切らないのが一番大事で当たり前である。

自分たちも社協から数千円の補助金をもらうのにも、苦勞して写真をきちんと添付しているのに、一体どういうことなのか。億という金額は庶民には縁の無い額であり、しっかり調査してほしい。

【加藤課長】 職員側にもコンプライアンスの欠如があり、しかも長期間継続していたという問題が何故発生してしまったのかという気持ちもある。きちんと調査を行い、二度と繰り返さないように取り組みたい。

【勝山委員】 多額の補助金の返還が生じるが、組合からの返還の見込みはあるのか、また組合の今後はどうなるのか？

【加藤課長】 金額は今後の調査の結果判明するが、返すべきものである。組合が返還可能かどうかは現時点では不明。また組合自体がどうなっていくか、大北地域の林業をどうしていくかという視点も併せ、県庁と一緒に対応して考えていくしかないが今現在見通しできない。

【菅澤委員】 本来、補助金を受けて実施されるはずだった森林整備や作業道で完了してない箇所があるが、必要なものは実施してほしい。

【加藤課長】 中途半端な状況で終わりにすることはできない。調査して精査した後に森林所有者等と調整の上進めていかなければいけない。

【香山委員】 (自分たちは、森林組合と) 同様に補助金をもらいながら仕事をしており、他人事と言える立場ではない。しかし、事業が全く終わってないというのは考えられないこと。

積雪等で一部掘り返して検査をしても全体を確認することはできず、次(の回の申請)に送るのが筋だが、(年度末では) 予算消化の問題がありそういう対応もできない。予算ありきという現状を今後どうしていくのか考えていかなければいけない。

今回のように問題が明らかにならなければ、(森林税の) 27 年度予算も過去と同じように予算化されていたはず。

未実施の箇所の整備をどうするのか大きな課題であるが、(終わらなくて困ったという) 地域住民の声が聞こえてこない。地域の中での森林整備に対する評価がどうなのか反省するべきであり、やってもやらなくても変わらないと住民に思われている。(本当であれば未施工であればすぐに分かり苦情が出るはず。) 本当に必要とされている事業だったのかと考えてしまう。

【加藤課長】 再発防止対策の中では検査方法等議論されていくと思う。背景にある予算の執行という問題ですが、制度上は、実施したものについて検査し、補助金を執行するものであり、確認できないものは次(の年度)へ送ることもできたかもしれないが、確認がないがしろにされて実行実行できてしまったことは深く反省するべきである。

森林を育成するには間伐は必要であるが、森林整備の重要性が住民に伝わらない状況をなんとかしなければいけない。

この会議の中で毎年指摘をされているが、必要性の認識を持ってもらえるようにいかなければいけない。

【丸山委員】 緩衝帯整備は市民の目に見えているが、(その結果) 里に出没する鳥獣の増減や効果等について、因果関係等市民に伝えて欲しい。

(森林税を使って) 何をやっているのかが市民には見えない。林業に対して税金がどう使われているのか興味がないというのが課題だと感じている。

この機会を前向きにとらえ、森林整備により森林が豊になり、水資源も保全できているなどの効果を発信できればいいと思う。

【加藤課長】 身近に感じてもらうには県だけではなく、市町村と一緒にあって、市民の目に触れる PR の方法を検討したい。

【浅見座長】 森林整備を止めろという声はなく、100%「正しい行為」であるがそれに甘えてはいけない。森林整備を行う「森林組合」という組織は絶対に良い組織であると思われている。このようなことに関係者である我々は甘えてはいけないのではないか。

このことにより地域の林業の停滞を招かないようにしなければいけない。

再発防止策を講ずるのは、納税者の信頼を回復するということ。

県民がこの問題をどうとらえているのかを注視する必要がある。

【加藤課長】 関係者皆で具体的に見直していくことに協力願いたい。また県民がどうしてほしいのか県民会議での意見を確認しながら活かして行きたい。

【香山委員】 あまりにも補助金に依存し過ぎている。補助金が無ければ林業が成り立たないのは、木が（市場で）必要とされていないから。（森林の）公益的な機能を考慮して補助金がでていのに、事業者としては（補助金に）依存しているので、まずどんな補助金が見えるのかから始めてしまっている。「この山をどう整備すれば地域の中で役に立つのか」ということから考えなければいけない。方向性を変える必要がある。

この地域だけの問題でなく、日本全体で林業をどう成り立たせていくのかということであり、それにはどういう補助金が必要となるのか、考える順番を変える必要がある。

【加藤課長】 山をどう育てて、守りながら木を利用していくのか、地域にとっての経済効果も考えた林業行政としていかなければいけない。

【浅見座長】 議事終了とします。

(4) その他

【事務局】 次年度の会議日程説明（H27 年度第 1 回現地調査と併せて 10 月頃、第 2 回を 3 月上旬頃開催予定）